

CASBEE 新築[簡易版]

評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社ゼンリン テクノセンター増	階数	地上6F
建設地	福岡県北九州市	構造	S造
用途地域	工業専用	平均居住人員	590 人
気候区分	地域区分	年間使用時間	3,416 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2013年4月25日
敷地面積	10,000 m ²	作成者	藤原 康行
建築面積	4,735 m ²	確認日	2013年5月8日
延床面積	11,092 m ²	確認者	藤原 康行



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.8

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 執務内の快適性を確保しつつ、外部に与える環境負荷を極力低減することを目的とした、環境配慮型のオフィスの計画を心がけた。	その他 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 執務室の音環境の配慮を特に重視。騒音地の予測計算をした上で、計画を行っている。	Q3 室外環境(敷地内) 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備の高温廃熱は、建物の高い位置にて排出する計画としている。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 BEMS、及び太陽光パネルを採用している。	LR3 敷地外環境 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 一般ゴミの排出量の把握、分別回収の実施。有価物(缶類)の集団回収を計画的に行っている。管理車用駐車場、従業員用の十分な駐車場・駐輪場を確保している。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 外装材には、耐用年数の長い磁器質タイル貼りを採用。1階床下には、設備配管更新用のピットを設置する計画と	
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 リサイクル材料を内装材(タイルカーペット、塩シート)、外装材(磁器質タイル)に採用。 化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない内	

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
Q: Quality (建築物の環境品質)、**L: Load** (建築物の環境負荷)、**LR: Load Reduction** (建築物の環境負荷低減性)、**BEE: Building Environmental Efficiency** (建築物の環境効率)
 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい